



② 婚礼見舞祝納帖

明和2年 (1765) 2月28日

現在では祝儀として、現金を贈ることが当たり前になっていますが、江戸時代は金銭の他にも様々な物品を贈ることが一般的でした。展示した史料は祝儀として納められた金銭や物品の書き上げ帳です。「鵝目」(錢)の他に、結納などの婚約儀礼の際にも贈られる「御樽」(樽酒)や「茶袋」などの嗜好品、「せった」や「足袋」などの足回り品、「帯」や「木櫛」などの服飾品といったように、その内容は多岐にわたります。

富澤久幸家文書 P0905 No.1104

(吾妻郡東吾妻町原町)

【22】

婚礼見舞祝納帖

〔釈文〕

(表紙)

明和貳年 (一七六五)
 婚礼見舞祝納帖
 酉二月廿八日
 喜 利

一鵝目式拾疋 (がもく) 平左衛門

足袋式枚

一本色(紅)に(雪駄)せった 善右衛門

御樽 肴

一足袋木櫛 徳左衛門

御樽一

ほかい一 (行器)

帯一筋 孝母様方(紫)むら(緞子)さきどんす 川戸

一鵝目拾疋 伊右衛門

茶袋一

同

一御樽一 九右衛門

(後略)